

令和元年度
埼玉県学力・学習状況調査報告書（平成31年4月実施）

令和元年
12月

埼玉県教育委員会

埼玉県学力・学習状況調査



埼玉県マスコット「コバトン」

埼玉県学力・学習状況調査報告書

検索



<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>



彩の国
埼玉県

令和元年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔平成31年4月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

令和元年 12月
埼玉県教育委員会

はじめに

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査であり、今年度、5回目の実施となりました。

児童生徒には、本調査を通して現在の学力を知るだけでなく、「この1年間でどれだけ伸びたか」「小学校4年生のときと比べてどれだけ伸びたか」などを実感し、自信を深めることを大切にしてほしいと考えています。

各学校においては、調査結果のデータから、学力等の伸びの状況を把握し、大きな伸びが見られた学級や教科の担当者からの聞き取りや授業参観を行い、効果的な実践を共有していただきたいと考えています。また、児童生徒の学力や学習方略、非認知能力などの状況を把握し、一人一人をより一層伸ばすための指導・支援について教職員で話し合うなど、積極的に活用していただきたいと考えています。

本報告書には、「調査の概要」、「調査結果の概要」、「調査結果の活用」、「特徴的な学校の取組」、「本調査の問題を活用した学習指導のポイント」、「分析支援プログラムで見られる本県の傾向」を掲載しております。本調査についての詳細や、5年間実施して見えてきたこと、今年度の調査結果を分析した指導改善の例、学校の取組の好事例などを、一冊にわかりやすくまとめてあります。なお、本報告書は、PDFデータで埼玉県教育委員会ホームページにも掲載します。ぜひ、多くの先生方に手に取って御覧いただきたくお願いします。

県では、市町村・学校との一層の連携・共同による重層的な支援として、「①総合的な支援（本調査の分析結果の普及や効果的な取組の共有）」と「②重点的な支援（伸び悩みを抱える市町村や学校への訪問支援等）」に取り組み、学力向上に関わる様々な関係者のPDCAサイクルの質がさらに高まるよう働きかけてまいります。引き続き、御理解・御協力をお願いいたします。

令和元年12月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

八 田 聡 史

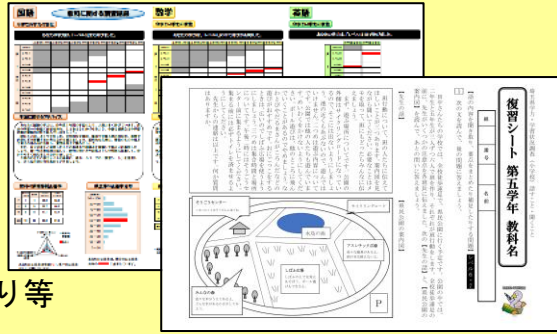


一人一人の学力を確実に
伸ばす教育の推進

子供たち、ご家庭の取組

伸びの実感

- ・ 個人結果票
- ・ 復習シート
- ・ コバトン問題集
- ・ 面談、懇談会、学校だより等



主体的・対話的で深い学びの授業改善

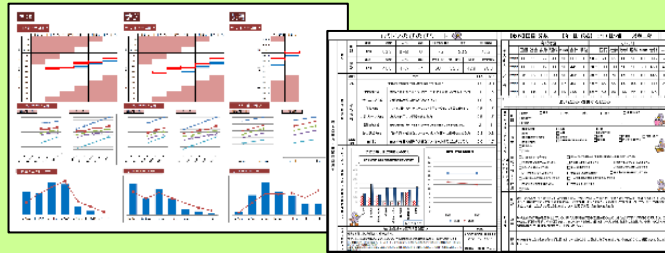
学習方略や非認知能力の向上

校内研修等で良い取組の共有

児童生徒を多角的に把握

学校の取組

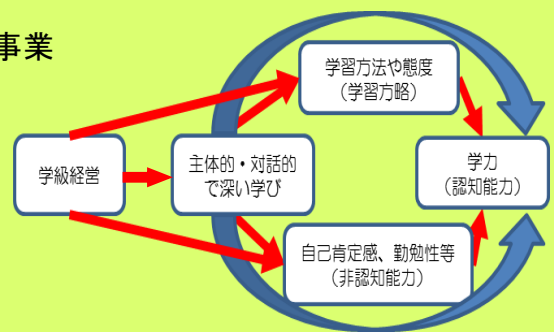
- ・ 学力向上の取組
- ・ 結果帳票の分析
- ・ コバトンのびのびシート



県の取組

- ・ 学力向上推進協議会
- ・ 「チーム埼玉」学力向上パワーアップ事業
- ・ 「未来を生き抜く人材育成」学力保障スクラム事業
- ・ 学力向上研究校指定事業
- ・ 学力向上プロジェクト教員
- ・ 重点支援
- ・ 良い授業を見つけ！広めて！学力UP事業
- ・ AIを活用した学びの実践研究事業
- ・ 学力を伸ばした担当者協議会
- ・ 「こんな取組が効果的でした」リーフレット
- ・ 埼玉県学力・学習状況調査報告書
- ・ 埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業

学力を大きく伸ばした良い取組の発信



調査から見えてくる！
学力 学力の伸び
経年での成長 意欲・態度
学習方略 非認知能力



目 次

はじめに

令和元年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

- 1 調査の概要 6
- 2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計 8
- 3 埼玉県学力・学習状況調査の分析からわかったこと（概要） 12
- 4 調査に関するQ&A 13

第2章 調査結果の概要

- 1 「学力の伸び」の状況 18
- 2 平成30年度埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業
における分析結果（参考） 22

第3章 調査結果の活用

- 1 個人結果票について 28
- 2 調査結果の分析・活用について 32
- 3 県学力・学習状況調査を活用した実践事例 40

第4章 特徴的な学校の取組の紹介

- 1 草加市立稲荷小学校 42
- 2 滑川町立宮前小学校 44
- 3 熊谷市立大幡小学校 46
- 4 八潮市立大曾根小学校 48
- 5 川口市立青木中学校 50
- 6 富士見市立水谷中学校 52
- 7 深谷市立幡羅中学校 54
- 8 越谷市立南中学校 56

第5章 学習指導のポイント

- 1 国語 60
- 2 算数・数学 72
- 3 英語 84

第6章 分析支援プログラムで見られる傾向

- 1 「教師との関係」と「自分に対する考え」分析と傾向 90
- 2 「学級の雰囲気」と「学習の様子」分析と傾向 92
- 3 「学習意欲」と「各教科の学力」分析と傾向 94
- 4 「AL」と「各教科の学力」分析と傾向 98
- 5 「家庭での生活習慣」と「各教科の学力」分析と傾向 102

第1章

調査の概要

本調査の目的や調査の設計、県としての「学力」や「学力の伸び」の考え方についてのイメージを示しました。

また、これまでの分析からわかったことや、調査に関するQ & Aも掲載しています。



1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

(2) 調査の対象

○県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）及び義務教育学校の児童生徒

- ・小学校 702校（148, 379人）
- ・中学校 354校（139, 495人）
- ・義務教育学校 1校（104人）

○県内の公立小・中学校及び義務教育学校並びに市町村教育委員会（さいたま市を除く。）

対象学年	教科	調査実施日
小学校第4学年	国語 算数	平成31年4月11日（木）
小学校第5学年	国語 算数	
小学校第6学年	国語 算数	
中学校第1学年	国語 数学	
中学校第2学年	国語 数学 英語	
中学校第3学年	国語 数学 英語	

(3) 調査の内容

調査には、児童生徒が解答（回答）する「児童生徒に対する調査」と、学校が回答する「学校質問紙調査」、市町村教育委員会が回答する「市町村質問紙調査」がある。

ア 教科に関する調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 対象教科

小学校第4学年～小学校第6学年 … 2教科（国語、算数）

中学校第1学年 … 2教科（国語、数学）

中学校第2、3学年 … 3教科（国語、数学、英語）

(ウ) 出題範囲

「小（中）学校学習指導要領（平成20年告示）」に示された内容及び「小（中）学校学習指導要領（平成29年告示）」に示された移行措置の内容で、各学年とも前学年までの学習内容

(エ) 調査事項

基礎的・基本的な知識・技能をみる問題（知識に関する問題）及び基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をみる問題（活用に関する問題）

イ 児童生徒に対する質問紙調査

(ア) 対象学年

小学校第4学年～中学校第3学年

(イ) 調査事項

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

ウ 学校及び市町村教育委員会に対する質問紙調査

(ア) 対象

県内の公立小・中学校

県内の市町村教育委員会

(イ) 調査事項

学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項

(4) 調査に要する時間

小学校第4学年～小学校第6学年

- ・教科に関する調査の調査時間は1教科40分とする。
- ・質問紙調査の調査時間は40分程度とする。

中学校第1学年～中学校第3学年

- ・教科に関する調査の調査時間は1教科45分とする。
- ・質問紙調査の調査時間は40分程度とする。



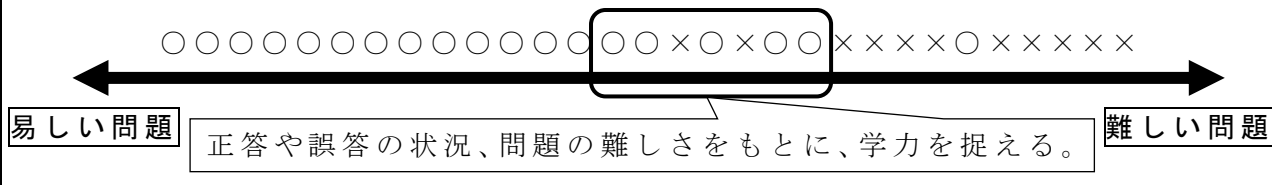
2 学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計

(1) 本調査における学力の捉え方

「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉える。

【イメージ】

ある児童（生徒）の調査問題の解答状況（○は正答、×は誤答）【全 30 問の場合】



ア 学力の捉えについて

問題の難しさは児童生徒により異なるので、上の図のように難しい問題に正答し、易い問題に誤答することもある。そこで、正答や誤答のパターンに基づき、学力をある程度の幅を持って捉えていく。

イ 「問題の難しさ」で学力を捉える理由

全国学力・学習状況調査など、正答数（正答率）を学力の指標として使う方式は「いくつの問題に正答したか」で学力を捉えている。この場合、単一の調査の中で学力を比べることはできるが、小学校 4 年生と 5 年生など出題内容が異なる調査の結果から学力を比較することは難しくなる。

「問題の難しさ」をもとに学力を捉える方式は、視力検査などに例えられることがある。視力を、どれくらい小さなマークが見えるかで測るように、学力を、どれくらい難しい問題に正答できるかで捉えていく。その際、次の(2)に述べる工夫をし、異なる調査問題の難しさを比較可能にした上で学力を捉える。

(2) 年度や学年で、異なる内容の調査結果を比較するための工夫

それぞれの調査に「全く同じ問題」を一部出題し、その問題への正答や誤答の状況を手掛かりとして、すべての問題について「難しさ」を比較する。

【イメージ】

※ 調査 A、B、C のそれぞれの調査問題を、難易度順に整列

調査 A 【平成 30 年度小 4】

問 1 問 2 … 問 10 問 11 … 問 29 問 30

調査 B 【平成 30 年度小 5】

問 1 問 2 … 問 10 問 11 … 問 29 問 30

調査 C 【令和元年度小 5】

問 1 問 2 … 問 10 問 11 … 問 31 問 32

易しい問題

難しい問題

調査 A の問 11 と
調査 B の問 10 は
全く同じ問題を出題

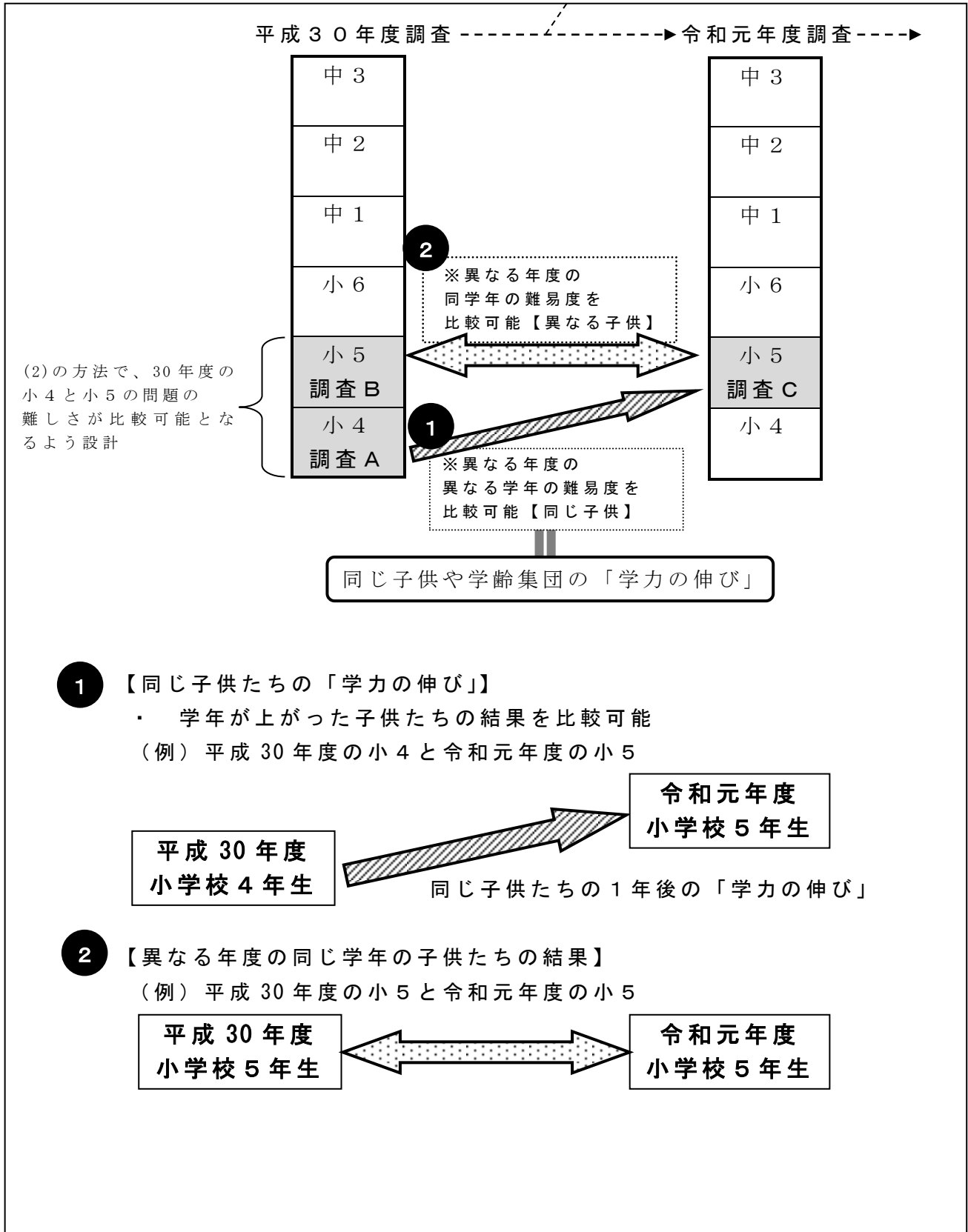
調査 B の問 29 と
調査 C の問 31 は
全く同じ問題を出題

(3) 埼玉県学力・学習状況調査の設計

(1)、(2)に基づき、本調査では、以下のような調査設計により問題の難しさを比較可能にして、それに応じて学力の経年変化(伸び)を見ることとしている。

調査の設計【イメージ】

(2)の方法で、平成30年度と令和元年度の問題の難しさが比較可能となるよう設計



(4) 本調査における「学力の伸び」の捉え方

ア 「難易度」について

本調査では、学力を「どのくらい難しい問題に正答できるか」で捉えるために、全ての問題に難易度を設定している。

<難易度の例>

○例1 計算問題（割り算）

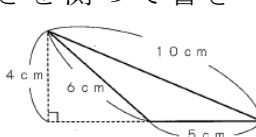
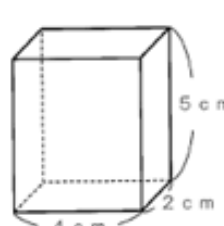
問題の難易度	問題例
6	$0.7 \div \frac{2}{3}$
4	$5.6 \div 1.4$
3	$52 \div 4$

割り算に分数も入るため、難易度がさらに上がって、「6」となる。

割り算に小数が入るため、難易度が「4」に上がる。

整数同士の割り算である。本調査では難易度を「3」と設定している。

○例2 求積の問題

問題の難易度	問題例
6	<p>次の図は、三角形の面積を求めるために、直線の長さを測って書き入れたものです。この三角形の面積を求めましょう。</p> 
4	<p>次の図のような、たて、横、高さがそれぞれ2 cm、4 cm、5 cmの直方体の体積を求めましょう。</p> 

与えられた数値から面積を求める問題である。必要な数値を取捨選択するため、難易度が「6」に上がる。

与えられた数値全てを使って体積を求める問題である。本調査では、難易度を「4」と設定している。

イ 「学力のレベル」について

様々な難易度の問題を出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断している。

学力は、「学力のレベル」で表される。学力のレベルはレベル1からレベル12までであるが、各学年の測定は以下の表のように7レベルの間で行っている。

学年	学力のレベル	学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～7	中学校1年生	レベル4～10
小学校5年生	レベル2～8	中学校2年生	レベル5～11
小学校6年生	レベル3～9	中学校3年生	レベル6～12

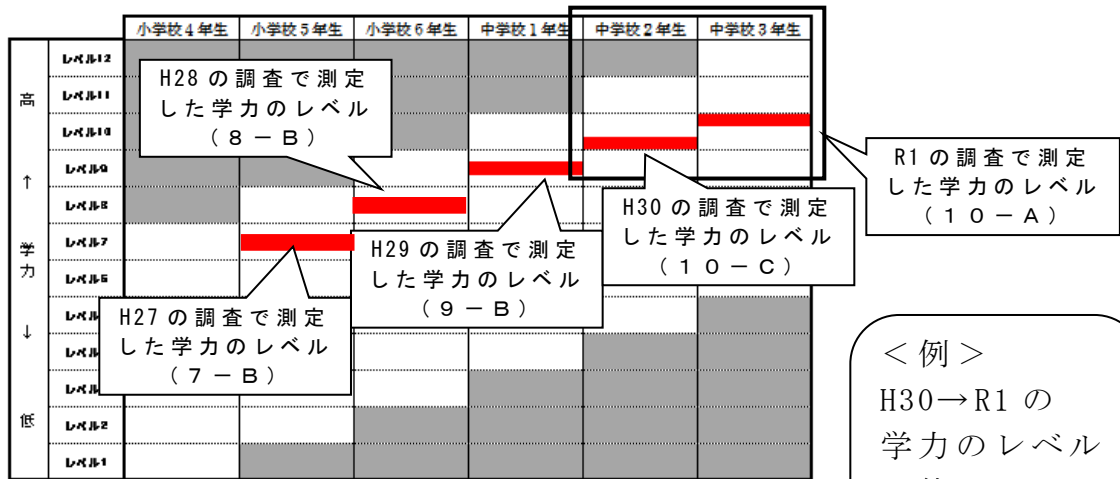
また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層（高い順にA→B→C）に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっている。児童生徒には、学力のレベルはこの小さな層で分けた1-Cから12-Aまでの36段階で提示される。

ウ 「学力の伸び」について

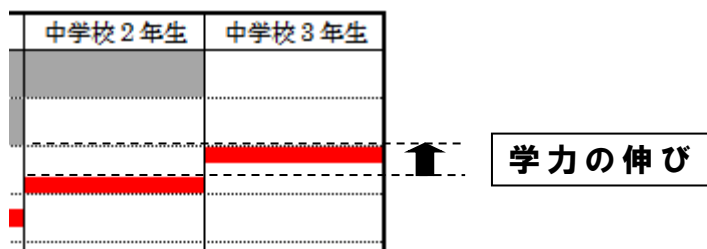
本調査では、年度間の学力のレベルの差を「学力の伸び」と捉えている。下図は、個人結果票の一部を拡大したものである。児童生徒には、学力のレベルがバーの位置で示される。前年度のバーの位置と、今年度のバーの位置を比べると「学力の伸び」が分かる。

「学力の伸び」は学力のレベルを36段階に分けた中でのレベルの差で測っている。

< 学力のレベルの示し方の例（個人結果票の一部） >



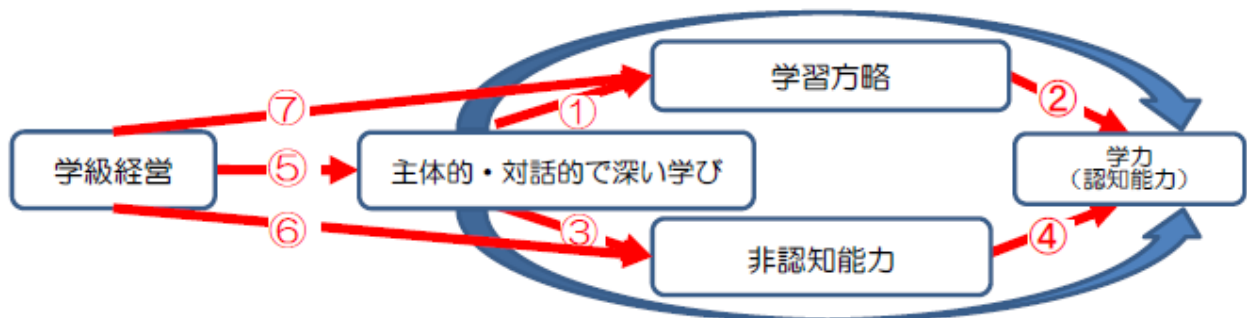
< 個人結果票・ 部分を拡大したもの >



< 例 >
H30→R1 の
学力のレベル
の伸びは、
10-Cから
10-Aで
2となる。

3 埼玉県学力・学習状況調査の分析からわかったこと（概要）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要である。

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

非認知能力とは？

人間の能力

認知能力

非認知能力
…認知能力ではない能力全般

いわゆる学力
たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

県学調で測っている非認知能力の例

自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やり抜く力	粘り強い、根気がある など

23

学習方略とは？

→学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動
本調査では、以下の6つの方略に分類

柔軟的方略 学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動	プランニング方略 計画的に学習に取り組む活動	作業方略 ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
人的リソース方略 友人を利用して学習を進める活動	認知的方略 より自分の理解度を深めるような学習活動	努力調整方略 「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

27



【帳票40】を活用することで、児童生徒一人一人の非認知能力や学習方略について分析することができます。

4 調査に関するQ & A

(1) 調査について

【Q1】

従来の調査と県学力・学習状況調査とは何が違うのですか。

【A1】

従来の調査は、学力を正答率で表すことが多く、調査年度の児童生徒の学力の現状を把握することには適していますが、実施年度が異なる調査の結果を比較しにくいという課題があります。

そこで、県学力・学習状況調査では、問題の難易度を考慮に入れて学力を測定する、つまり、「どれくらい難しい問題に正答できたか」という視点を加え、小学校4年生から、中学3年生まで、児童生徒たちの学力が伸びていく様子をより明確に示すことができるようになっています。

【Q2】

県学力・学習状況調査の調査問題は、原則として非公開とされていますが、なぜですか。

【A2】

経年での伸びを測るために、同一の問題を年度を越えて出題する必要があることから、問題を原則非公開としています。

県学力・学習状況調査は、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）や、TOEIC、TOEFL などと同様の調査手法を使っており、こうした調査でも問題は原則非公開となっています。

なお、県学力・学習状況調査の類似問題等を基に作成した「復習シート」を県教育委員会ホームページに掲載しています。このシートは、家庭や学校で「学習した内容がしっかり身に付いているのか」の確認や、「一人一人の学力をさらに伸ばす」ことに利用できます。

(参考・県教育委員会ホームページ)

県学力・学習状況調査の「復習シート」について

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuusi-to.html>

(2) 個人結果票の見方について

【Q3】

同じ正答率の場合、同じ学力レベルになるのですか。

【A3】

同じ学力レベルにならない場合もあります。

県学力・学習状況調査の問題は、正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかでレベルが決まります。

例えば、AとBの児童生徒が同じ10問を解答した場合に、Aが一番易しい問題を1問間違えて、残りは全て正答し、Bが一番難しい問題を1問間違えたとします。この場合、正答率で考えると、AとBの学力はいずれも90%で同じということになりますが、本調査においては、より難しい問題に正答できているAの学力レベルの方が高くなります。

【Q4】

学力レベル7で考えた場合、小学校4年生の学力レベル7の児童と、
中学1年生の学力レベル7の生徒の学力は、同じと考えてよいのでしょうか。

【A4】

県学力・学習状況調査の「学力のレベル」については、学力レベルが上がるほど難しい問題を解く力があると考えています。小学校4年生のレベル7と中学校1年生のレベル7では、正答できる問題の難易度は同じです。

ただし、小学校4年生の学力レベル7の児童が中1のレベル7の問題を解けるかという
と、解けない可能性が高いです。これは、学習指導要領により学習内容が定められている
ため、中学校1年生のレベル7の問題を小4の児童はまだ習っていないためです。

【Q5】

学年の中で、レベルの数値が1上がると、該当学年内でのレベル数値は低くても
「大きな伸びが見られた」とコメントされていますが、なぜですか。

【A5】

本調査では、どの学力レベルの中でも、数値が伸びているのであれば、児童生徒一人一人に伸びを実感させ、自信をもたせることが重要と考えています。

そのため、昨年度の自分と比較して、難易度が1レベルでも高い問題を解けるようになったことを「大きな伸び」と捉えてコメントしています。

【Q6】

中学2年生での学力レベルが5（中学2年生の中では一番低い学力レベル）の場合、学力レベル5より下のレベルがつけられない状態になっています。
この場合の学力レベルは、どのような基準でつけているのですか。

【A6】

中学2年生の調査において学力を測定できる問題の範囲は、レベル5からレベル11と設定しています。レベル5の問題に1問でも正答していれば、レベル5の学力がある可能性があるため、レベル5に位置付けられるようになっています。この場合、レベル5を明らかに下回るのは、正答数が0問の場合であり、その場合は、レベル自体が表示されないこととしています。

（3）個人結果票の返却について**【Q7】**

個人結果票を児童生徒に返却する際、どんなことを伝えればよいですか。

【A7】

本調査は、過去の自分の学力と現在の学力を比較できる設計となっています。一人一人の児童生徒に対して、学力の変化の状況についての適切な働きかけを行うことにより、今後の学力向上につなげていただきたいと思います。

学力が伸びた児童生徒に対しては、1年間の頑張りを認めたり、褒めたりすることで、自信を持たせてください。

また、学力が伸びていない児童生徒に対しては、教育相談などを行うことで、つまずきや悩み等を共有し、取組について丁寧な見取りなどを行うことで、今後の学力向上につなげてください。

児童生徒の解答状況については、「教科の領域別正答率」の数値やレーダーチャートを参考にしてください。調査問題については、本調査の設計上非公表となっていますが、県ホームページ上に「問題概要」や「復習シート」（類似問題）を掲載しているので、それらも活用してください。

返却する際、保護者も同席している場合には、可能な限り時間をかけていただき、個人の「学力の伸び」や児童生徒のよさや課題を丁寧に伝えてください。そのうえで、伸びたところをほめたり、認めたりするとともに、苦手領域を中心に家庭学習を充実するよう伝えるようにしてください。

(4) 結果帳票について

【Q8】

帳票の「26_学力の伸びの状況」の見方についてです。
線の傾きは何を表していますか。

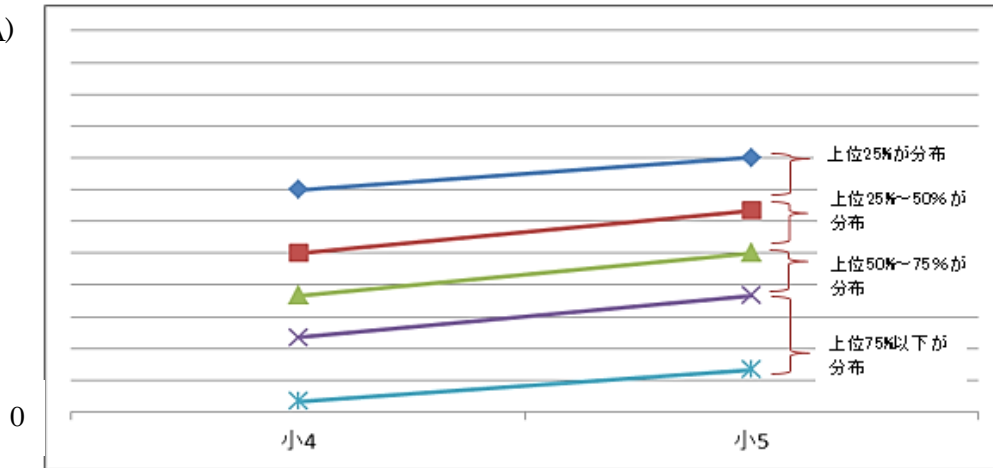
【A8】

この帳票では、同学年の集団の中で、特定の位置にいる児童生徒（75%値に位置する児童生徒、中央値に位置する児童生徒、25%値に位置する児童生徒）の前年度と今年度の学力を示しています。

前年度のそれぞれの位置を、今年度と比べることによって、この集団の学力分布の変化が分かります。

【グラフの見方】

36(12-A)



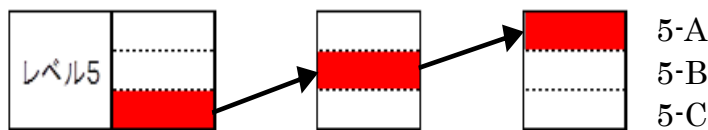
- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

グラフの縦軸は、学力レベルを表しています。

目盛りは、個人結果票の学力レベル（12段階）を表しています。

各レベルの間は、A、B、Cの3段階に分かれています。

よって、全体では36段階（12×3）になります。



第2章

調査結果の概要

平成27年度から令和元年度の計5回の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、昨年度の本調査データ活用事業の分析結果も掲載しています。



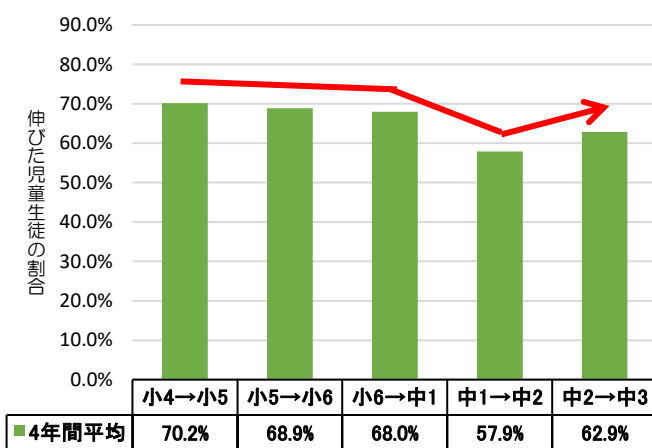
1 「学力の伸び」の状況（平成27年度～令和元年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で5回目となり、4度目の「学力の伸び」の状況が分かりました。4年間の「学力が伸びた児童生徒の割合」を平均した結果の傾向と対応策をお伝えします。

傾向

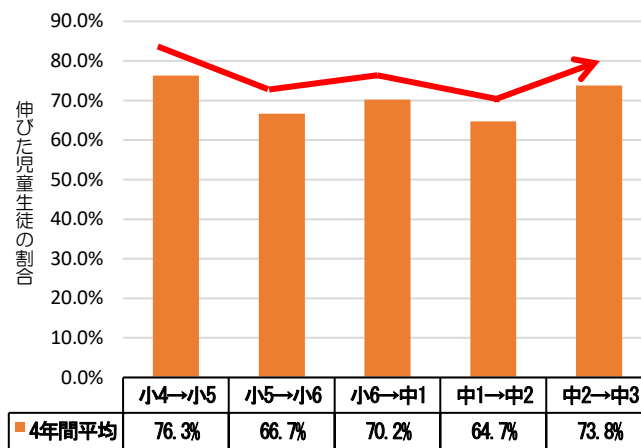
- 「学力が伸びた児童生徒の割合」が最も多いのは、小学校4年生から5年生にかけてであり、最も少ないのは中学校1年生から2年生にかけてである。教科担当制に変わるなどの学習環境の変化、新しい教員や友人との関わりなどの生活環境の変化等により、学習面での伸び悩み（中1ギャップ）が起きていることが考えられる。
- 中学校2年生から3年生にかけて「学力が伸びた生徒の割合」が増加する。中学校の学習環境・生活環境に慣れてくることや、進路を意識して家庭での学習などに一層力を入れたりすることが考えられる。

国語科



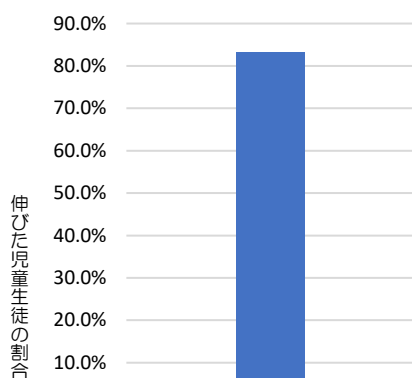
H27→H28	85.4%	65.1%	61.2%	46.6%	56.6%
H28→H29	73.1%	70.2%	71.7%	66.0%	68.3%
H29→H30	71.0%	66.7%	67.0%	57.4%	60.9%
H30→R1	51.2%	73.5%	72.2%	61.7%	63.7%

算数・数学科



H27→H28	76.8%	64.9%	66.1%	60.2%	79.0%
H28→H29	71.4%	65.2%	69.2%	64.8%	74.7%
H29→H30	77.8%	65.8%	70.6%	64.2%	69.1%
H30→R1	79.3%	70.8%	74.7%	69.4%	72.2%

英語科



■ 4年間平均	伸びた児童生徒の割合
中2→中3	83.2%

H27→H28	69.1%
H28→H29	88.8%
H29→H30	90.9%
H30→R1	84.1%

※数値の見方

これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票 01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

対応策

【よい取組の共有】

子供たち一人一人のつまづきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が大きい、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、調査結果における児童生徒の非認知能力や学習方略等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律の定着があり、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で合同研修会や授業研究会を実施し、指導法の違い等について共通理解を図るなど、学習面での小中連携を一層進める。

教科別授業改善の視点

国語科

【多面的に思考し、自分の考えを深める活動】

- 複数の本や新聞などの資料を活用して自分の考えを書いたり、他者や本との対話から自分の考えを整理して表現したりする場面を意図的に設定しましょう！
- ねらいに即して発言を切り返したり、問い直したりすることで、子供一人一人が自分の考えを深められるようにしましょう！

【言葉の特徴や使い方に関する事項の定着】

- 主語と述語の関係や、修飾と被修飾との関係などの「知識及び技能」の定着を図りましょう。その際には、他教科や日常生活、社会生活等で生かせるような具体的な場面をイメージさせ、思考・判断、表現することを通じて定着させましょう！

【振り返りの実施】

- 子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるように、学習した過程を振り返る時間を確保しましょう！

【国語科で培った力を他教科等で生かす取組】

- 「話すこと・聞くこと」の単元で身に付いたことを生かして、他教科等で話し合う活動などを、年間指導計画に明確に位置付けて取り組みましょう！

算数・数学科

【日常生活や社会の場面からの課題設定】

- 学習課題を設定する際に、日常生活や社会と関わりを持たせることで、イメージを持って課題に取り組めるようにしましょう！

【見通しと振り返りの実施】

- 既習の確認、具体物の操作等、一人一人の子供が自分なりの考えを持てるように支援しましょう！
- 子供自身が考えた結果や過程を振り返る時間をとりましょう！

【言語活動の充実】

- 図、言葉、数、式、表、グラフなどの数学的な表現を用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れましょう！
- 子供の発言への切り返しや、子供の発言をつなぐことを意識しましょう！

【統合的・発展的に考える力の向上】

- 子供たちがそれぞれの考えに共通点や相違点を見いだしたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面をつくりましょう！

英語科

【単元の目標を明確にした授業づくり】

- 生徒に身に付けさせたい力を明確にした「単元の目標」や、授業1時間の目標（めあて）を生徒に提示することで、学習の見通しや活動の目的意識を持たせましょう！

【目的・場面・状況設定を大事にした言語活動】

- 具体的な場面・状況を設定し、言語活動に必然性を持たせ、生徒自身の考えや気持ちなどを表現したり伝え合ったりする活動を行いましょ！

【相手意識を持たせた表現活動】

- 英語を話したり、書いたりする活動では、誰に対して伝えるのかを明確にして、相手意識を持たせた表現活動を行いましょ！

【フィードバックや振り返りの充実】

- 生徒が行った活動に対するフィードバックや振り返りを行うことで、生徒自身の学びや変容を自覚できる場面を作りましょ！

これらの「授業改善の視点」は一例です。こうした視点を参考に、各学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。

2 平成30年度埼玉県学力・学習状況調査 データ活用事業における分析結果 (参考)

1 はじめに

県では、本調査の実施と併せて、約30万人分の調査結果を活用し、児童生徒の学力向上に向けた指導改善を進めるため、「データ活用事業」において分析を行っています。

平成30年度は、過去4年間に得られた調査データを、統計学や教科教育の専門的な研究機関である学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所へ委託し、指導と学力の関係について詳細な分析を行いました。

2 これまでのデータ分析結果

過去3年間（H27～H29）に得られた調査データを基に、平成29年度までに行った分析では、以下の結果が得られました。

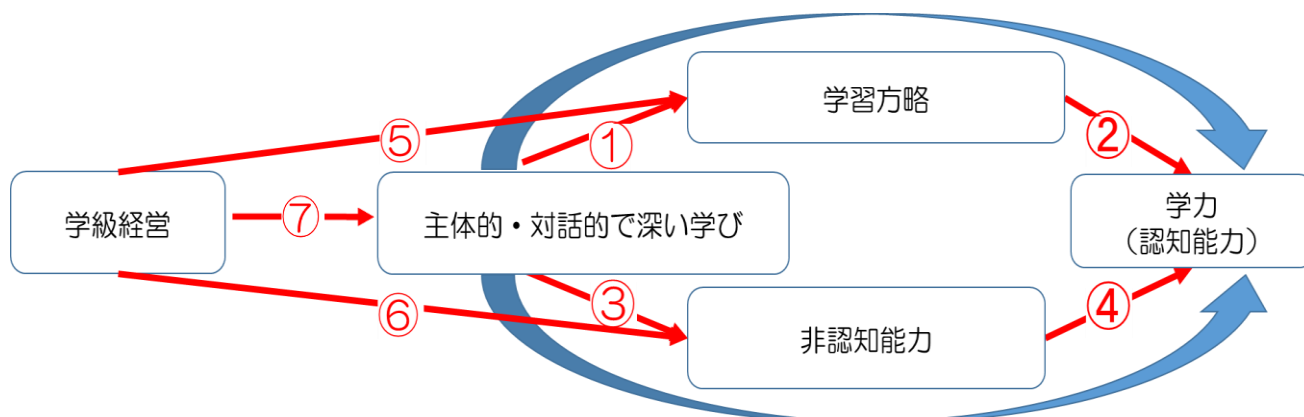
- ・「主体的・対話的で深い学び」は、児童生徒の「非認知能力」*₁の向上や「学習方略」*₂の改善を通じて、学力を向上させる可能性がある。(①～④)
- ・「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要であり、結果として児童生徒の学力向上につながる可能性がある。(⑤～⑦)*₃

(図1)

*1 「非認知能力」…例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力

*2 「学習方略」…例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度

*3 各項目についての詳細な説明は、「【別添1】分析に使用されている項目について」参照



(図1)データ分析結果の関係図

3 平成30年度のデータ分析結果

これまでの分析結果を踏まえて、平成30年度に行った分析の結果、主に以下の4点について新たに明らかになってきました。

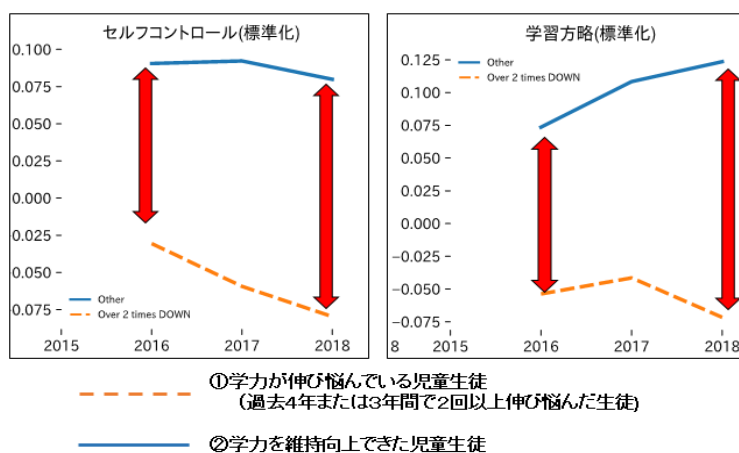
(1) 学力の維持向上には学習時間の確実な確保が重要であること。

学力レベルが同程度の集団を、4年間で「①少なくとも2回以上学力の伸び悩んだ児童生徒のグループ」と「②それ以外の児童生徒のグループ」に分け、詳細に分析

- ・②グループの方が学習時間が長く、学年が上がるにつれて、①②両者の差が広がっていく
- ・ゲームやSNSの利用時間などの状況においても、②グループの児童生徒の方が利用時間は短い傾向があり、ゲームやSNSの利用について家庭内でルール作りが行われている傾向がある

(2) 毎年の非認知能力を高めることが、学力の維持向上には重要であること。

前ページ(1)と同様の条件で分析



(図2) 学力向上と非認知能力・学習方略の関係

- ・学力を維持向上できている児童生徒は、学力が伸び悩んでいる児童生徒と比べ、早い段階から自制心などの非認知能力、学びに向かうときの態度や学習の仕方である学習方略が高い
- ・さらにその後も、学力を維持向上できている児童生徒と、学力が伸び悩んでいる児童生徒の、非認知能力や学習方略の差が縮まっていない
- ・現在の学力（国語、算数・数学）が非認知能力から受ける影響の大きさについて分析
- ・現在の学力は、1年前の非認知能力から受ける影響がある
- ・2年前の非認知能力が現在の学力に与える影響は、1年前の非認知能力から受ける影響に比べ小さい
→教員から児童生徒に対し、学習面のみならず非認知能力や学習方略を高めるために、継続的にサポートを積み重ねたことが、学力の向上につながっている

(3) 良い学級経営（落ち着いた学級づくり）ができている学校が、学力や非認知能力を伸ばしている傾向があること。

どのような学校が学力や非認知能力を伸ばしているのかを分析

- ・各学校の「学力水準」と「学力の伸びの状況」との関係について分析した結果、学力水準は高くなくても、学力をしっかりと伸ばしている学校があり、そのように学力を伸ばしている学校は、非認知能力も伸ばしている
- ・学習規律の定着があり、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを実現している学校が学力や非認知能力を伸ばしている

(4) 良い学級経営（落ち着いた学級づくり）の実現と、保護者等からの学校への働きかけの状況は関連していること。

どのような学級が良い学級経営（落ち着いた学級づくり）を実現しているのか分析

- ・保護者や地域の方々为学校の諸活動に積極的に参加している学校や、保護者や地域の方々の協力・支援によって学校の教育活動がより良いものになっていると教員が実感している学校は、良い学級経営を実現していく傾向が強い

【別添1】分析に使用されている項目について

項 目	説 明
主体的・対話的で深い学びの実施	学級における主体的・対話的で深い学びの実施状況を数値化した値 ※ 児童生徒質問紙の回答から算出した値のため、教師が実施したかどうかではなく、児童生徒が実施についてどう受け止めていたかという値
【児童生徒質問項目（例）】 ※学年により、質問項目が異なります。 あなたの〇年生の時の〇〇の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。 <ul style="list-style-type: none">・ 課題を解決するときに、それまでに習ったことを思い出して解決できたこと・ 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと・ ノートやワークシート、プリントに書いた授業のまとめを先生に見てもらうこと・ グループで活動するときに、一人の考えだけでなくみんなで考えを出し合って課題を解決すること・ 授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表すること・ 授業の始めに、先生から、どうやったら課題を解決できるか考えるように言われること・ 授業の始めには気が付かなかった疑問が、授業の終わりに、頭に浮かんできたこと	

項目	説明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑥に分類される。
① 柔軟的方略 … 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動 (例) 勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする など	② プランニング方略 … 計画的に学習に取り組む活動 (例) 勉強を始める前に計画を立てる など
③ 作業方略 … ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動 (例) 大切なところを繰り返し書く など	④ 人的リソース方略 … 友人を利用して学習を進める活動 (例) 友達に勉強のやり方や分からないところを聞く など
※ 分析結果では「人的リソース方略」は、児童生徒の学力と負の相関（人的リソース方略を利用する児童生徒ほど、学力が低くなる傾向）が報告されています。	
⑤ 認知的方略 … より自分の理解度を深めるような学習活動 (例) 勉強した内容を自分の言葉で理解する など	⑥ 努力調整方略 … 「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動 (例) 分からないところも諦めずに継続して学習するなど
【児童生徒質問紙の項目】	
柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからないところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
人的リソース方略	勉強でわからないところがあったら、友達にその答えをきく 勉強でわからないところがあったら、友達に勉強のやり方をきく 勉強のできる友達と、同じやり方で勉強する 勉強するときは、最後に友達と答えあわせをするようにする
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないところがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとして、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なところだけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する

項 目	説 明
非認知能力	テストで計測される学力やIQなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の4種類について質問を行っている。
<p>① 自制心 … 自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力 (例) イライラしていても人に八つ当たりしない など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和元年度の小学4年生、中学1年生に質問 自制心</p>	<p>授業で必要なものを忘れた 他の子たちが話をしているときに、その子たちのじゃまをした 何か乱暴なことを言った 机・ロッカー・部屋が散らかっていたので、必要なものを見つけることができなかった 家や学校で頭にきて人やものにあたった 先生が、自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた イライラしているときに、先生や家の人(兄弟姉妹を除きます)に口答えをした</p>
<p>② 自己効力感 … 自分はそれが実行できるという期待や自信 (例) 難しい問題でも自分ならできると考えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和元年度の中学2年生に質問 自己効力感</p>	<p>授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ、先生のこと、自分の実力のことなどを考えれば、自分はこの授業でよくやっているほうだと思う</p>
<p>③ 勤勉性 … やるべきことをきちんとやることができる力 (例) 宿題が出されたらきちんと終わらせる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和元年度の中学3年生に質問 勤勉性</p>	<p>うっかりまちがえたりミスしたりしないように、やるべきことをやります ものごとは楽しみながらがんばってやります 自分がやるべきことにはきちんと関わります 授業中は自分がやっていることに集中します 宿題が終わったとき、ちゃんとできたかどうか何度も確認をします ルールや順番は守ります だれかと約束をしたら、それを守ります 自分の部屋や机の周りはこちらかっています 何かを始めたら、絶対終わらせなければいけません 学校で使うものはきちんと整理しておくほうです 宿題を終わらせてから、遊びます 気が散ってしまうことはあまりありません やらないといけないことはきちんとやります</p>
<p>④ やりぬく力 … 自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力 (例) 失敗を乗り越えられる など</p> <p>【児童生徒質問紙の項目】 令和元年度の小学6年生に質問 やりぬく力</p>	<p>大きな課題をやりとげるために、しっばいをのりこえてきました 新しい考えや計画を思いつくと、前のことから気がそれてしまうことがあります きょう味をもっていることやかん心のあることは、毎年かわります しっばいしても、やる気がなくなってしまうことはありません 少しの間、ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても、しばらくするとあきてしまいます 何事にもよくがんばるほうです いったん目ひょうを決めてから、その後べつの目ひょうにかえることがよくあります 終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません 始めたことは何でもさいごまで終わらせます 何年もかかるような目ひょうをやりとげました 数か月ごとに、新しいことにきょう味を持ちます まじめにコツコツとやるタイプです</p>

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

学校独自の分析等と併せ、調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったサイクルの確立につなげてください。

- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う



1 個人結果票について

令和元年度埼玉県学力・学習状況調査

事務連絡（7月2日付け）再掲

担任用

個人結果票の活用について



県教育委員会では、県内公立小・中学校の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒一人一人の学力の経年変化（学力の伸び）を把握するために、平成27年度から県学力・学習状況調査を行っています。

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。

児童生徒には、学力の伸びを実感し自信を深めることで、学習意欲がさらに高まるよう、個人結果票の返却時に声をかけてください。

保護者の方には、家庭学習を励ますために、児童生徒の伸びやつまずきを具体的に伝えてください。

先生方におかれましては、児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

1 個人結果票の返却及び活用の流れ

返却前

○ 個人結果票に、各学校で保管している個人番号シール票をもとに、組、出席番号、名前を記入する。

※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないか十分に確認してください。

返却時

児童生徒には

- 本調査の特徴を伝えます。
 - ・「学力の伸び」が分かる調査であること
 - ・現在の「学力のレベル」が分かる調査であること
- 一人一人の1年間のがんばりや伸びを認め、ほめるとともに苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- 夏休み以降の学習計画のアドバイスをします。

保護者には

- 可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- 伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- 家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

埼玉県学力・学習状況調査 復習シート

検索

※ 御家庭への返却につきましては、各学校の実態に応じて、7月中旬以降9月中を目途にお願いします。この結果を今後の学習に生かせるよう、できる限り早く返却いただけるよう御協力をお願いします。

埼玉県教育委員会

2 個人結果票の見方について

【個人結果票 1 ページ】

1 ページには、**2・3 ページの、教科に関する調査結果の見方**が掲載されています。

また、**それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例**（実際の調査問題のうち、当該レベルの児童生徒が70%程度の確率で正答できる問題）が掲載されています。調査は4月実施のため、各教科とも調査問題の出題範囲は前学年の内容です。参考にしてください。

【個人結果票 2・3 ページ】

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル」の中で伸びました。

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10
中	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9
小	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8
幼	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7

学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、昨年度1年間の学習により、著実に伸びています。自分の学力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

話すこと・書くこと・書くこと・書くことなど、さらに力を伸ばすために、話し合いをする際には司会などにチャレンジし、相手の意見を述べながら聞き、促している提案をまとめるたり、発音が目的に合っているか考えたりしながら、話し合いを上手に導きましょう。書く際には、起承転結や伏線、手帳などのいろいろな形で伝えたいことが表現できるように心がけてください。

また、文学的な文章は、情景や人物の描き方、作品の雰囲気作りへの影響を考えながら読みましょう。取組んだ文章は、考えを述べることができるよう読解力を身につけているかを意識して取り組むとよいです。

今回のあなたの学力レベルを参考に、黒ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めたいと思います。

数学

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル」まで伸びました。

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10
中	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9
小	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8
幼	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7

学習に関するアドバイス

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、よきさらに伸ばすよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

関数は、大変よくできました。関数の学習においては、グラフと関数に関連させた問題に積極的に取り組み、式・グラフを使って考えることが大切です。3年生では数値で表される関数の学習をするので、一次関数と比較したり、式・表・グラフと関連させたりして考えましょう。

また、関数の学習においては、関数をかいたり補助線を引いたりして、分かっていることを整理し、平行線の性質などを積極的に使うことが大切です。3年生では相似な図形の学習をするので、図中の垂いしご今中に印をつけて取り込みましょう。今回のあなたの学力レベルを参考に、黒ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めたいと思います。

英語

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル」まで伸びました。

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10	レベル10
中	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9	レベル9
小	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8	レベル8
幼	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7

学習に関するアドバイス

あなたの英語の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、よきさらに伸ばすよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

読むことは、大変よくできました。さらに読む力を伸ばすために、教科書の原文を通して読み、様々な英語の本を読み取り、今までのより高い文章を読むことに挑戦してみましょう。高校入試の英文問題などに取り組むことも効果的です。

また、読書や本文の読解力などの子供や生徒で習った単語や本文の理解を深めに行きましょう。また、書いた単語や本文を使って、自己紹介や簡単な日記など、自分の好きなテーマで英文を書くことに挑戦してみましょう。最初は短い文章から始め、どんな良い文章が書けるようになるか挑戦していきましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、黒ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めたいと思います。

教科の領域別正答率

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	8	3	85.7	75.3		
中	8	3	85.9	75.3		
小	10	18	71.4	70.0		
幼	24	30	80.0	73.8		

あなたの正答率は黒線 (○)、黒平均

黒全体の正答率分布

あなたの正答率は、黒全体の正答

教科の領域別正答率

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	11	12	87.7	75.3		
中	4	7	87.1	82.4		
小	5	7	71.4	83.8		
幼	5	8	83.3	85.0		
幼	20	22	78.1	88.0		

二乗数の活用

黒全体の正答率分布

教科の領域別正答率

学年	国語	算数	英語	理科	社会	総合
高	9	10	85.0	75.1		
中	13	22	88.4	89.3		
小	2	8	83.3	83.5		
幼	30	38	78.9	87.1		

う書きに

黒全体の正答率分布

※この個人結果票は、【中学校2・3年生用】です。【小学校4～6年生用】【中学校1年生用】は国語と算数・数学の2教科になります。

(1) 学力のレベルなどの見方について

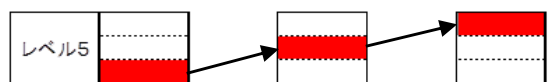
学力のレベルはバーの位置で表しています。学力のレベル表記は1 2段階ありますが、測定は各学年7 レベルの間で行います。

例えば、中学2年生の測定範囲は、レベル5からレベル11になります。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11
中学校3年生	レベル6～レベル12

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで学力の伸びがわかります。例えば、同じレベル5の中でも、学力のレベルが高くなるとバーの位置が変わります。



※前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化がわかります。

(2) **今までの学力の変化** について

「児童生徒の学力の変化」について、次のような形でコメントを記載しています。

例：

あなたの学力は、「レベル11」まで伸びました。

コメントは、次の①～⑧のパターンがあります。

	児童生徒の学力の変化の状況	表示されるコメント
①	学力が伸びて、レベルが上がった場合	あなたの学力は、「レベル〇」まで伸びました。
②	同じレベル内で、伸びがあった場合	あなたの学力は、「レベル〇」の中で伸びがありました。
③	学力の位置が前年度と同じだった場合 学力の位置が前年度より下がった場合 (スモールステップでレベルが1つ下がった場合を含む)	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR1の児童生徒の学力レベルの数字)
④	2つ以上レベルが下がった場合 正答数が0問であった場合 (学力のレベルの は表示されません)	学校の先生等と、学習などについて相談をしてみましよう。
⑤	全ての調査問題に正答した場合	あなたの学力は、レベル〇以上になりました。 (〇は当該学年での最高レベルの数字)
⑥	本年度の調査は実施したが、昨年度の調査を未実施の場合	あなたは、「レベル〇」の学力があります。 (〇はR1の児童生徒の学力レベルの数字)
⑦	本年度調査の一部教科を未実施の場合 (昨年度実施・未実施の場合とも)	未実施教科：本年度の調査を受けていないため、今回の学力のレベルは表示できません。 (実施教科については①～⑥の状況に応じたコメントが表示されます。)
⑧	本年度の調査を全教科未実施の場合 (個人結果票の返却はありません)	—

※個人結果票を返却する際のお願い

【①②⑤の場合】(「学力の伸び」が見られた場合)

- ・本調査のねらいを実現できるよう、学力の伸びた教科について、**児童生徒一人一人の1年間のがんばりを認め、ほめる**言葉かけをお願いします。
- ・その際、「教科の領域等別正答率」や「県全体の正答率分布」なども参考にしながら、**よさを具体的にほめる**よう心がけてください。

【③④の場合】(学力の位置が前年度と同じ、または前年度より下がった場合)

- ・伸びている他の教科や、「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よい部分をほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。
- ・学力が前年度と同じか下がっている児童生徒については、「授業への取組」「学習習慣」「生活習慣」などにつまずきや悩みがある可能性があります。**個々の学習方法や生活上の悩みの聞き取り、教育相談などを行う**ことで、児童生徒の状況を把握し、助言し、その後の取組等を見届けるなど十分な支援をしてください。

【⑥の場合】(昨年度未実施の場合)

- ・「教科の領域等別正答率」「県全体の正答率分布」を参考に、**よい部分をほめる**ことを中心に言葉かけをしてください。

【⑦の場合】(今年度一部未実施の場合) 実施教科について、①～⑥に準じてください。

【⑧の場合】(今年度全教科未実施の場合)

- ・個人結果票はありませんが、日常の授業等ががんばっているところ等、ほめることを中心に言葉かけをしてください。

(3) **学習に関するアドバイス** について

アドバイスは3段構成になっています。

例：「同じレベル内で、伸びがあった場合」のコメント

あなたの数学の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。

図形は、大変よくできました。図形の学習は、平行線の性質など今まで学習した性質を使い、いろいろな視点から考えることが大切です。3年生では相似な図形の学習があるので、図の中に含まれるいくつかの性質を関連させて考えを深めましょう。

また、関数の学習は、式から交点を求めたり、式をグラフに表したりする問題ができるようになることが大切です。3年生では放物線の学習があるので、分かっていることを、式・表・グラフと関連させ、ていねいに取り組みましょう。

今回のあなたの学力レベルを参考に、県ホームページの「復習シート」を活用して、さらに自分の力を高めていきましょう。

①




②

③

- ・①では、児童生徒の学力の状況について説明し、「学力の伸び」を認めるコメント、授業や学習習慣などへのアドバイスを記載しています。
- ・②では、領域等別に、今後どのような学習がさらに効果的であるかを記載しています。
- ・③では、復習シートの活用を促しています。

「学力レベルが前年度と同じだった場合」「学力レベルが前年度より下がった場合」については、「必要に応じて、学校の先生やご家族の方と相談してみるのもよいでしょう。」などのコメントを記載しています。児童生徒の現状や要望に応じて**面談などを行い**、つまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、子供たちが自分をさらに伸ばし、自分のよさを生かしていけるよう働きかけましょう。

(4) **教科の領域等別正答率** 及び **県全体の正答率分布** について

- ・「教科の領域等別正答率」には、領域ごとの正答数、設問数、正答率を県全体の平均も併せて記載しています。レーダーチャートの実線（）は児童生徒の正答率、網掛け（）になっている部分は、県全体の平均正答率となっています。学力の変化の状況以外に、児童生徒のよさを認める際の参考としてください。
- ・「県全体の正答率分布」は、人数を横軸とした県全体の分布を棒グラフで示しています。当該の児童生徒が含まれる集団を表す棒グラフの色を  として、県全体におけるおおよその位置が分かるようになっています。ただし、**本調査の目的は、児童生徒一人一人の「学力の伸び」や変化を把握してよさを伸ばしていくこと**にありますので、県全体の中での位置に重きを置いた働きかけや指導は控え、あくまで**参考として御活用ください。**

【個人結果票4ページ】

(5) 「質問紙調査の結果～規律ある態度の達成目標～」について

- ・規律ある態度の達成目標について、児童生徒の回答状況を示しています。
- ・面談等において**よいところを認め、ほめる**材料にしてください。

(6) 自由記述欄の活用について（例）

- ・夏季休業中の学習計画や取組などについて児童生徒が記入する。
- ・保護者ががんばりを認めたり、励ましたりするコメントを記入してもらう。
- ・担任が、児童生徒のがんばりなどを認めるコメントを記載しておく。

2 調査結果の分析・活用について

事務連絡（7月2日付け）再掲

令和元年度埼玉県学力・学習状況調査

学校担当者用

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。各小・中学校におかれましては、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①学年全体の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・県の様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②学級の伸びを把握し、分析する。→【帳票42（新帳票）】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「伸びの平均」や「伸びた児童生徒の割合」が計算されています。
- ・伸びが見られた学級や教科を確認します。

活用

○伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

- ・「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見つけます。

埼玉県教育委員会

【帳票28】を活用した分析

分析①

学年全体の伸びを把握し、分析する。

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

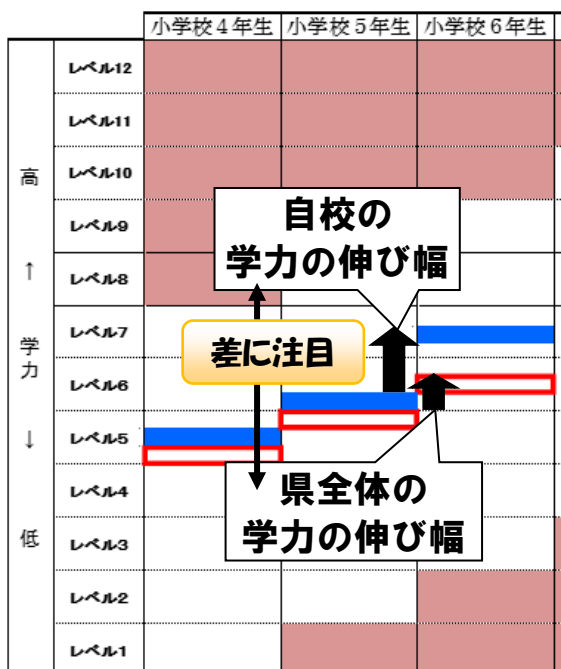
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見つける。

【分析②】学力レベルの違い

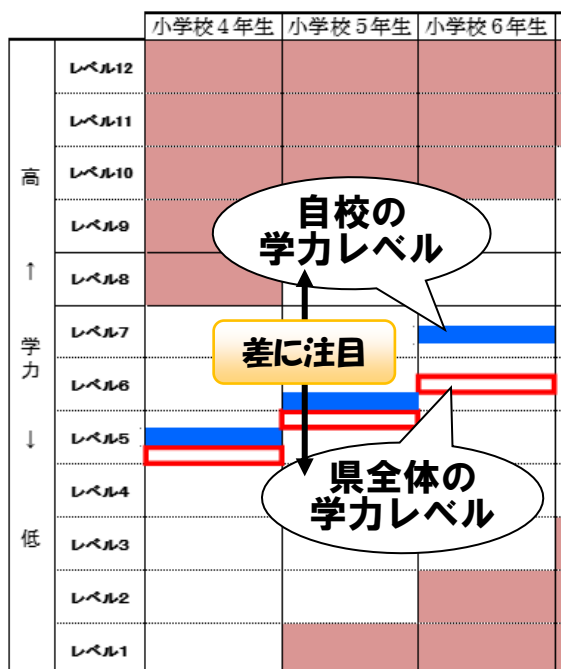
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見つける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見つける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力の伸びた児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。

「伸び幅が大きい」「学力のレベルが高い」学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。

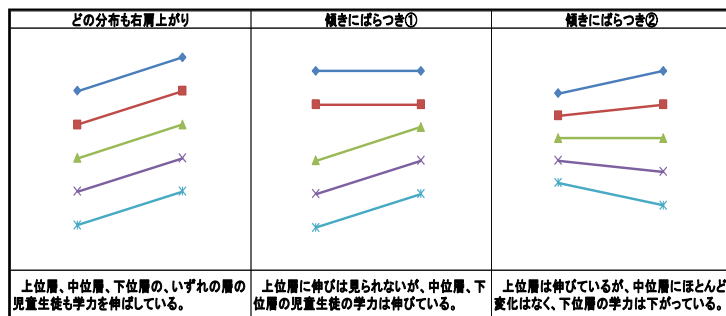
【分析②】 埼玉県とのグラフの傾きとの比較

→ 県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

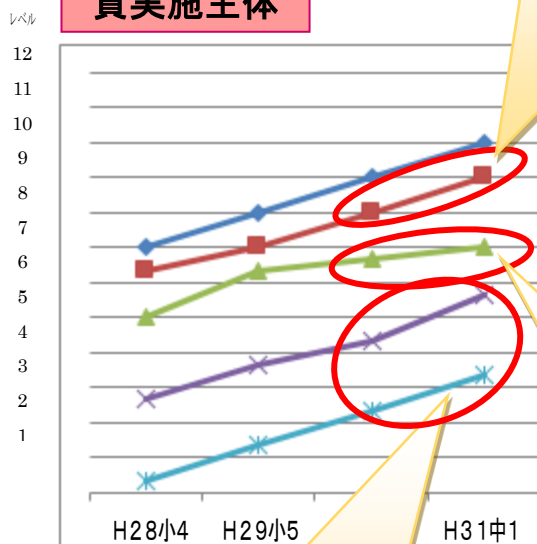
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値（最も学力が高い児童生徒が属する学力レベル）
- ⇒ 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- ▲ ⇒ 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- × ⇒ 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童生徒が属する学力レベル）
- ＊ ⇒ 最小値（最も学力が低い児童生徒が属する学力レベル）

分析例

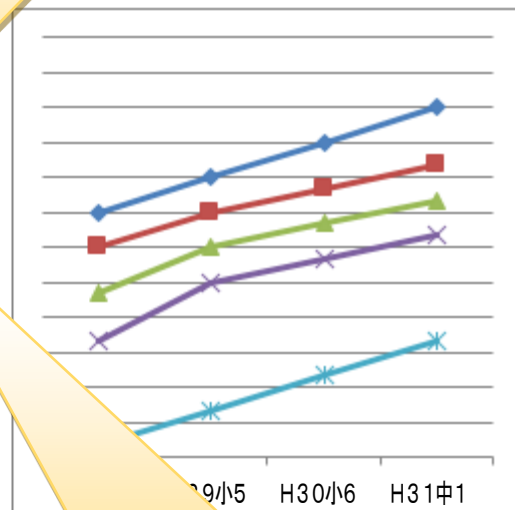
貴実施主体



下位層のグラフの傾きが
県のグラフの傾きより大きい
⇒ 下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒ 上位層を伸ばす工夫があったのではないかな。

埼玉県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒ 前学年でのつまずきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票42】を活用した分析

分析②

学級の伸びを把握し、分析する。

○ 【帳票42】学力分析データ（前年度在籍クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知）クラス別

→ 前年度の「伸びの平均」や「伸びている児童生徒の割合」を分析する。

分析例

平成31年度埼玉県学力・学習状況調査(旧小学校6年生)

学力分析データ(前年度在籍クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知)クラス別

●●市立●●

前年度の学級で
並べ替えてあります！

年度	H30 学年	H30 組	H30 児童 生徒数	学力を伸ばした 児童生徒の割合 (%)		学力の伸び率 (H31学力レベルとH30 学力レベルの差の平均)		H31学力レベ ル平均		H30学力レベ ル平均	
				国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
			県平均→	60.2	57.1	1.9	1.8	21.4	19.9	19.5	18.1
2019	6	1	36	70.6	70.8	2.3	2.2	22.2	20.3	19.9	18.1
2019	6	2	36	70.1	71.5	2.1	2.4	21.5	21.3	19.4	18.9
2019	6	3	36	58.9	71.9	1.8	3.5	21.4	21.9	19.6	18.4
2019	6	4	36		57.2	3.1	1.6	22.7	20.3	19.6	18.7

【例】1, 2組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に伸ばしている。

⇒学級経営に定評のある2人の担任から、学級経営のノウハウを共有

【例】3組は算数、4組は国語の指導で大きく成果を上げている。

⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科のよい指導方法を共有

※【帳票42】は、今年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した新帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。特に、中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学校6年生のときの学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

年度	H30 学年	H30 組	H30→H31(変化量)								
			アクティブ・ ラーニング の実施	学習方略					非認知能力		
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感
			0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	-0.7	-
2019	6	1	0.1	0.4	0.3	0.4	0.0	0.3	0.3	-0.4	-
2019	6	2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.5	0.5	-0.6	-

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉がけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りの
ポイント

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

参観の
ポイント

- ・ 授業後の協議が深まるよう、参観するポイントを示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



校内研修例

協議例 1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。

(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例 2 学年（学校）として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年（学校）に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年（学校）、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説>（協議・意見交換により設定）

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目>（本校の実態及び協議・意見交換から設定）

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

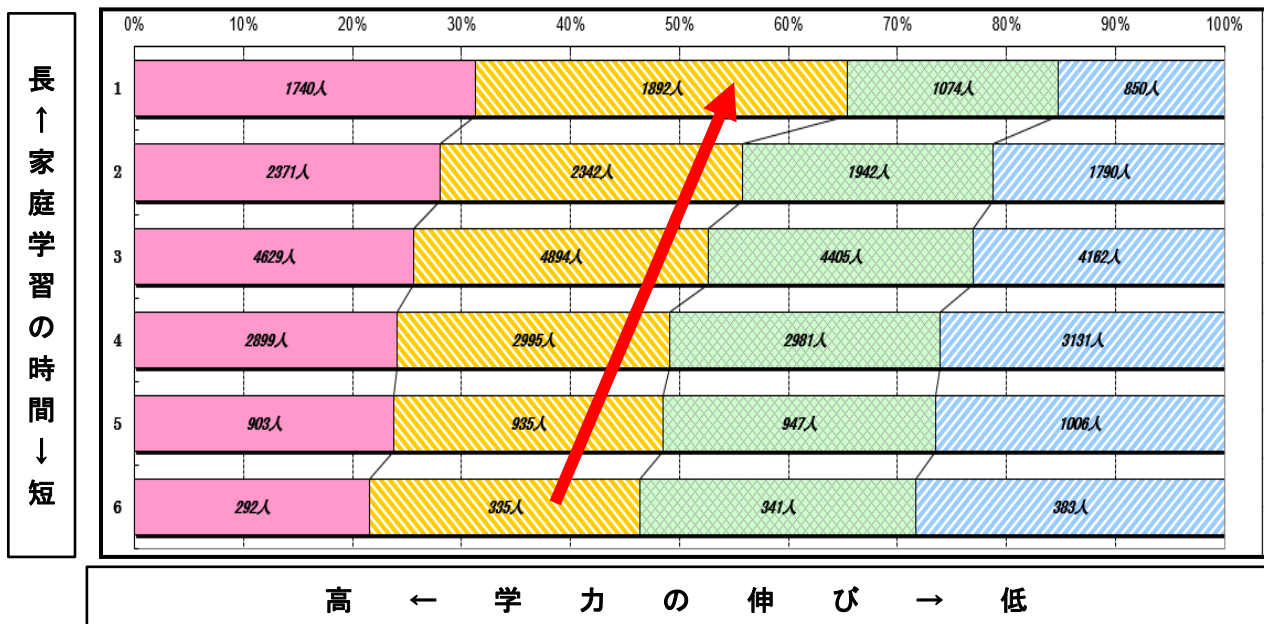
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問(学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習しやすく勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も入ります))

横軸カテゴリー⇒ 学力の伸びの階層_算数

プルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「家庭学習の時間(学習塾・家庭教師含む)」と「算数の学力の伸び」のクロス集計です。

※上の例は、平成30年度小学校第6学年(全県)のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

活用例② 「他項目との関連の強さ」を視点とした分析 「学校として何に取り組むのが有効か？」

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目⇒ 算数【観点】《数量や図形についての技能》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

探索項目(相関係数が高い順に表示)		相関係数
10	算数【領域等】《数と計算》成績階層	強く関連 0.815
11	算数【領域等】《図形》成績階層	強く関連 0.807
12	算数【領域等】《量と測定》成績階層	やや強く関連 0.776
13	算数【観点】《数量や図形についての知識・理解》成績階層	やや強く関連 0.766
14	算数【領域等】《数量関係》成績階層	やや強く関連 0.734
15	算数【観点】《数学的な考え方》成績階層	やや弱く関連 0.688
16	国語【領域等】《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》成績階層	やや弱く関連 0.566
17	国語【観点】《言語についての知識・理解・技能》成績階層	やや弱く関連 0.566
18	国語【領域等】《読むこと》成績階層	やや弱く関連 0.557
19	国語【観点】《読む能力》成績階層	やや弱く関連 0.557
20	国語【領域等】《話すこと・聞くこと・書くこと》成績階層	0.481
21	国語【観点】《話す・聞く能力》成績階層	0.418
22	国語【観点】《書く能力》成績階層	0.369
23	質問《しよう来どの学校まで進みたいと思いますか》	0.321
24	質問《学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますが(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に教えている時間)	0.242
25	質問《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますが(学習じゅくで勉強している時間や家庭教師に教えている時間)	0.238
26	質問《学校の宿題をしていますか》	0.219
27	質問《あなたは、勉強する理由について、どのように考えていますか》《勉強することが楽しい、好きだから》	0.214
28	質問《(小5国語) 自分の考えを理由をつけて発表したり、書いたりできたこと》	0.209

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【観点】《数量や図形についての技能》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。

※上の例は、平成30年度小学校第6学年(全県)のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小(中)学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

3 県学力・学習状況調査を活用した実践事例

「コバトンのびのびシートを活用して、学力に課題のある児童生徒について学力や学習の状況を把握し、効果的な指導方法を話し合い、共有する。」

【A小学校の例】

コバトンのびのびシート

教科 (国語・算数)	年度					
	H31	正答率	レベル	伸び	話す聞く書く	読む
国語	H31	63.3	6-B	3 (2)	25.0	88.9
算数	H31	40.3	5-C	0 (2)	36.4	42.9
						図形 数量関係

項目	内容		H31	変化
	AL			
学習方法(学習方略)	柔軟的方略	学習の進め方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動	3.1	0.3
	プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	2.0	-0.2
	作業方略	ノートに書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進める活動	2.8	0.3
	人的リソース方略	すぐにやり方や答えを聞かずに学習を進める活動	1.6	0.3
	認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動	2.6	0.1
	努力調整方略	「苦手」等の感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	3.1	0.3
非認知能力	やり抜く力	物事に対し情熱を持って、粘り強く取り組むことができる力	2.7	0.2

学習方略と非認知能力の変化

学力レベルの変化

【年・組・氏名】 6年1組1番 ○○ ○○

実力テスト(国語)	実力テスト(算数)					
	話す	聞く	書く	読む	漢字	その他
全国学級	78	87	40	87	89	90
〇〇学級	88	68	56	80	88	97

実力テスト(国語)		実力テスト(算数)					
国語	算数	数と計算	量と測定	図形	数量関係	計算問題	文章問題
78	88	67	55	40	45	70	40
87	68	70	66	40	50	80	45

伸ばしたいところ

国語

算数

学習に取り組む態度

記述欄

態度

のびのびシートから先生の眩き

〇〇さん、図形分野が弱いよね・・・どうしたらいいかしら？

研修会や普段の職員室で

今までに習った図形の復習をモジュールステップで徹底的に！

図形の角の大きさに色を塗って見せるとはっきりと分かると思うよ。

図形分野のときには、具体物を準備するといいわよ！

私も、授業でそうしてみよう

- 【他にも・・・コバトンのびのびシートから見えてくること】
- ①国語の「話す・聞く・書く」の領域が弱い。
 - ②「プランニング方略」の数値が昨年度より下がっている。
 - ③「柔軟的方略」「努力調整方略」などが順調に伸びている。
 - ④「将来の夢や目標」は、どちらかと言えば持っていない。
 - ⑤家庭学習の時間が、30分～1時間以内である。
 - ⑥家の人とあまり話をしていない。

- 【具体的な支援】
- ・授業中での支援
 - ・授業外での支援
 - ・学校行事等での支援
 - ・部活動での支援
 - ・家庭と連携しての支援 など



大切なことは、教職員で、「コバトンのびのびシート」をもとに、よりよい指導方法について話し合いをし、それをみんなで共有することだよ。